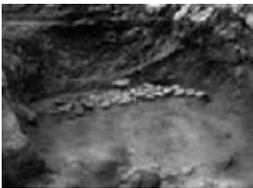




▲第1号墳内の敷石



▲第2号墳内の敷石



History

キラリを再発見

宅地造成中に発見された横穴群

平成6(1994)年10月3日に、新野地区中尾の五嶋誠吉氏が宅地造成のため自宅の裏山を重機で掘っていた際に、古墳時代の須恵器3点を発見したことにより、中尾殿之谷横穴群の存在が判明しました。そして、緊急発掘調査が実施され、第1号墳以外に、第2・3号墳が存在していることが確認されました。発掘調査の結果、天井部崩落などにより本来の横穴の構造や形態などを明確にすることはできませんでした。

第1号墳では直径10～20 ϕ の河原石が玄室の奥に隙間なく敷き詰められていましたが、2号墳は、河原石が玄室の奥壁に沿って三日月形に6～15 ϕ 程を敷いた特徴的な形態でした。また、周辺壁面の確認調査の結果、全部で7基の横穴が存在していることが判明しました。

須恵器の年代から第1号墳は7世紀中頃に造られたと考えられます。

埋蔵文化財包蔵地 中尾殿之谷横穴群

Atomic

暮らしと原子力

1、2号機の使用済み燃料搬出 と5号機主復水器細管損傷対応

中部電力は、11月19日、1号機と2号機の使用済み燃料を計画的に5号機へ搬出すること、これに伴い、5号機主復水器細管損傷に係る対応として、実施してきた原子炉圧力容器および炉内構造物の点検を一時中断することを公表しました。

1号機と2号機の使用済み燃料は、廃止措置計画で、1号機は2012年度末までに、2号機は2013年度末までに搬出することとしています。これまで、その時々状況を考慮しながら、使用済み燃料を搬出してきましたが、津波対策工事や5号機の主復水器細管損傷に係る対応などの間、作業干渉を避けるため、使用済み燃料搬出を見合わせてきました。

しかし、5号機の原子炉圧力容器と原子炉格納容器の上

項目	2012年度		2013年度	2014年度
	上期	下期		
<1号機> 使用済み燃料の搬出		燃料の調査 ▽使用済み燃料搬出完了予定		
<2号機> 使用済み燃料の搬出	□			▽使用済み燃料搬出完了予定
<5号機> 点検・健全性評価 (1)設備の点検・評価	原子炉圧力容器および炉内構造物 ----- (中断) ----- (再開)			
	上記以外の設備			
(2)燃料の点検・評価				

▲各号機の対応工程